

## <研究活動の紹介> 平英司

私の研究の関心は、「ろう者と聴者とが出会う場又、手話と日本語が出会う場でどのようなことが起こるのか」です。

具体的には、ろう児を手話で育てている聞こえる親の家庭におけるろう児の兄弟姉妹のバイモーダル・バイリンガル(手話と音声)現象を中心に、調査・研究を中心に行っています。

## <研究業績等>

### バイリンガル・バイモーダル関連

#### 2020年

<論文(査読付き)>「バイモーダル児のモードスイッチングのタイプに関する一考察」言語コミュニケーション文化=Language communication culture/関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化学会編 17(1) pp.91-106.

#### 2019年

<研究発表>「複モード児におけるモード・スイッチング」手話言語と音声言語に関する民博フェスタ 2019

#### 2018年

<研究発表>「バイモーダル児のモード選択における対話者の使用モードの影響」母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2018 年度研究大会ポスター発表

#### 2017年

<学術講演等>「手話のバイリンガリズムーバイモーダルの世界を中心にー」第一言語としてのバイリンガリズム研究会 (BIL1) 第 15 回研究会基調講演

#### 2016年

<論文・記事>「日本手話と日本語のバイモーダル児のモードスイッチの要因に関する一考察ー対話者のモード使用を中心にー」『公益財団法人明治安田こころの健康財団研究助成論文集』通巻第 51 号 pp.115-124.

#### 2015年

<論文(査読付き)>「モードスイッチにおける言語構造の切り替えーバイリンガル聴児Kのケーススタディーを通してー」『手話学研究』Vol.24,日本手話学会 pp.31-49.

<論文・記事>「〈研究ノート〉日本手話と日本語のバイモーダル児の手話(手指モダリ

ティ-使用：2歳2ヶ月の幼児に関するケーススタディー」『関西学院大学先端社会研究所紀要』12号 pp.69-77.

#### 2014年

<研究発表> 「コーダのジェスチャーに関するケーススタディー -ろう文化と聴文化のバイカルチュラルとしてのコーダー」 異文化間教育学会第35回大会

<論文・記事> 「手話と日本語とのバイリンガル児の言語使用」『バイリンガリズム入門』山本雅代（編著）、井狩幸男、田浦秀幸、難波和彦 大修館書店 pp.171-173.

#### 2013年

<研究発表> 「日本語—日本手話バイリンガル児のモダリティーと手話のタイプ」日本手話学会第39回大会

#### 2012年

<学術講演等> 立命館大学・大学院・言語教育情報研究科主催、第1言語としてのバイリンガリズム研究会（BiL1）共催、立命館大学国際言語文化研究所共催、国際シンポジウム「Harmonious bilingual development: what it is and how it can be fostered」シンポジスト

#### 2011年

<研究発表> 「バイモーダル児のモダリティー使用に関するケーススタディー」日本手話学会第37回大会

#### 2010年

<研究発表> 「W-coding in utterance of a bilingual child of Japanese and Japanese Sign Language」 The Conference on Sign Linguistics and Deaf Education in Asia 2010

#### 2009年

<研究発表> 「日本手話—日本語バイリンガル家庭における聴児の言語使用～発話内コードスイッチングを中心に～」日本手話学会 35回大会

#### 2007年

<研究発表> 「新しいバイリンガル家庭「サインランゲージファミリー」の研究」異文化間教育学会第28回大会（共同発表者：砂田武志）

## 手話通訳関連

### 2022 年

<研究発表> 第 20 回日本手話通訳学会「医療従事者のためのろう・難聴者へのサポートガイドの作成～手話通訳士の視点から～」(共同発表者:小松智美、皆川愛、平英司、高山亨太、八巻知香子)

<研究発表> 日本ヘルスコミュニケーション学会第 14 回学術集会「ろう・難聴者のがん情報収集および情報提供のあり方の検討」(共同発表者:皆川愛、高山亨太、平英司、八巻知香子)

<研究発表> 日本ヘルスコミュニケーション学会第 14 回学術集会「障害者の医療機関受診時の困難と好事例に関する研究－福祉支援職への調査結果－」(共同発表者:八巻知香子、甲斐更紗、今橋久美子、清野絵、平英司、飛松好子)

<論文(査読付き)>「手話通訳者の訳出がろう者の記憶証言に与える影響」法と言語.No.6 pp.1-35.

<論文(査読付き)>「医療現場における手話通訳の課題 ～手話通訳者へのインタビュー調査の質的分析～」(共著:平英司・皆川愛・高山亨太・香川由美・八巻知香子)

日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌-第 13 巻第 2 号 pp.19-35.

<論文(査読付き)>「ろう者を対象にした医療情報の翻訳における課題 ～がん冊子の手話動画作成を通して～」(共著:皆川愛・高嶋由布子・八巻知香子・平英司・高山亨太)

日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌-第 13 巻第 1 号 pp.30-39.

### 2021 年

<研究発表> 日本ヘルスコミュニケーション学会第 13 回学術集会「手話通訳を活用した医療提供に関する課題分析～手話通訳者へのインタビュー調査を通して～」(共同発表者:平英司、八巻知香子、香川由美、皆川愛)

### 2019 年

<論文(査読付き)>「スポーツ手話通訳を取り巻く現状と課題」日本手話通訳士協会・日本手話通訳学会研究紀要 2018 年度第 16 巻(共同発表者:井出敬子、田村梢、岡田直樹)

<研究発表>「手話通訳者の訳出がろう者の記憶証言に与える影響」法と言語学会第 11 回年次大会

<論文・記事>「How Hearing People Understand the Deaf and Some Legal Implications of Their Misinterpretation of Visual Expressions」International Journal for the Semiotics of Law - Revue Internationale de Sémiotique Juridique 32 (4)pp.819-829.(共同発表者:Shizuka Itagaki)

### 2018 年

<研究発表>「スポーツ手話通訳を取り巻く現状と課題」日本手話通訳学会(共同発表者:井出敬子、田村梢、岡田直樹)

## 2015年

<論文(査読付き)>「幼少期のコーダの手話通訳体験とコーダから見た手話通訳者」日本手話通訳士協会・日本手話通訳学会研究紀要 2014年度第12巻 pp.96-107.

<学術講演等>法と言語学会ワークショップ『殺意』－言語学と法律学、通訳と弁護の交錯  
パネラー

## 2014年

<論文(査読付き)>「学術的講演会における手話通訳活動に関する課題分析」日本手話通訳士協会・日本手話通訳学会研究紀要 2013年度第11巻 pp.79-94.

<研究発表>「コーダから手話通訳者」日本手話通訳学会（共同発表者：小北悦子）

<研究発表>「研究会等における手話通訳の課題分析」全国手話通訳問題研究討論集会（共同発表者：前川和美、馬場博史）

<研究発表>「法廷通訳に関する今後の課題」全国手話通訳問題研究討論集会（共同発表者：前川和美、馬場博史）

## 2013年

<研究発表>「学術的講演会における手話通訳活動に関する課題分析」日本手話通訳学会（共同発表者：下谷奈津子）

<論文(査読付き)>「ろう者の手話通訳者の養成における現状と課題」日本手話通訳士協会・日本手話通訳学会研究紀要 2012年度第10巻 pp.65-68.（共同発表者：砂田武志）

<論文・記事>「日本手話」『多言語社会日本』多言語化現象研究会、三元社、第14章9節 pp.241-245.

## 2012年

<研究発表>「ろう者の手話通訳者の養成における現状と課題」日本手話通訳学会（共同発表者：砂田武志）

## その他研究活動

### 2022年

<研究発表>言語文化教育研究会第8回年次大会「手話教育における手話劇活動がもたらす、ろう文化に対する学習効果の一考察－日本手話受講学生の手話劇に見られるろう文化の分析－」（共同発表：平英司、前川和美）

### 2017年

<学術講演等>第17回日本手話教育研究大会パネルディスカッション「日本手話教育の課題と展望～過去・現在・そして20年後の手話の行方は？」パネリスト

### 2015年

<研究発表>社会言語科学会第35回大会「宮窪手話の「数」に関する表現－日本における危機言語－」（共同発表者：矢野羽衣子、松岡和美）

### 2014年

<研究発表>日本言語学会第149回ポスター発表「愛媛県大島のビレッジサイン（手話方言）における数と時表現」（共同発表者：矢野羽衣子、松岡和美）

### 2013年

<学術講演等>日本手話学会企画関西講演「手話研究の世界－手話研究がもたらしたものの手話学習、手話研究を中心に－」

### 2012年

<論文・記事>「関西学院大学における手話教育の取り組み－①～④」一般社団法人日本手話通訳士協会機関誌『翼』No.247（2012年8月～11月号）

### 2011年

<論文・記事>「〈特集記事〉「特集：大学における手話教育」に際して」『手話学研究』第20巻 pp.3-4.

### 2009年

<研究発表>日本手話学会35回大会「関西学院大学における「日本手話」授業の現状と課題」（共同発表者：前川和美、松尾美幸）

### 2007年

<学術講演等>多言語化現象研究会第32回研究発表会「日本手話をとりまく最近の動向」

**2006年**

<論文・記事>「ろうのすずめは何を語るか～D e a f コミュニティーにおける笑い：デフジョーク～」関西学院大学図書館 第7回J.C.C.Newton 賞受賞作品（優秀賞）

**2000年**

<研究発表>第8回職業リハビリテーション研究大会「職場におけるろう者の非言語コミュニケーションの研究－表情理解を中心に－」

## 研究助成等

### 2020年(-2024)

- ・科学研究費基盤研究C

「日本語と日本手話のバイリンガル児の言語使用に関する質的調査」

### 2015年

- ・公益財団法人明治安田こころの健康財団研究助成

「ろう児のいる家庭における言語活動のデータベース化-ろう児の兄弟姉妹にあたる聴児の言語活動を中心に-」

### 2014年

- ・科学研究費奨励研究

「手話と日本語のバイリンガル家庭におけるバイリンガル児の言語使用」

- ・公益財団法人福武財団 瀬戸内海地域振興助成「愛媛県大島におけるビレッジサイン(手話方言)の保存及び言語学的分析のためのデータベースの構築」平英司(研究代表者)、矢野羽衣子、松岡和美

### 2013年

- ・関西学院大学先端研究所リサーチコンペ採択「ろう児をもつ家庭におけるコミュニケーションの分析-ろう児をきょうだいにもつ聴児の言語使用を中心に-」

### 2012年

- ・科学研究費奨励研究「社会教育におけるろう者への情報保障～研究会等における手話通訳の課題分析」